

研究ノート

モンゴル語の補助動詞 *ög-* の機能について
— 内モンゴルにおけるモンゴル語「中部方言」を中心に —
Function of the Auxiliary Verb *ög-* in Mongolian:
With Special Focus on Mongolian Central Dialects in Inner Mongolia

斯欽格日樂

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

SIQINGERILE

(Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies)

キーワード: 授受的意味、「行為の完遂」の意味、限界性、意志性

Keywords: Benefactive, Accomplishment, telicity, Volitionality

目 次

1. はじめに
2. 補助動詞の定義
3. 先行研究
4. 研究方法
5. 分析
 - 5.1. 主動詞が非限界動詞 (主体動作動詞) の場合
 - 5.2. 主動詞が限界動詞 (主体動作・客体変化動詞と主体変化動詞) の場合
6. コーパスとアンケートの照らし合わせ
7. 補助動詞 *ög-* が表す意味とその意味が実現する条件について
 - 7.1. 主動詞の観点から
 - 7.2. 副動詞の観点から
8. おわりに

1. はじめに

モンゴル語¹の動詞 *ög-*²は、本動詞として使われる場合、「①相手にものを与える、渡す、受け取らせる、娘を嫁がせる」(Monggyul kelen-ü toli nayirayulqu duγuyilang 1999: 590) という意味を表すが、補助動詞として使われる場合は、「授受の意味」(Čenggeltei 1999: 319、송재목 1998: 100、Сун Бёнгу 2011: 94) と「行為の完遂」(Dawadaγba 1999: 64) の意味を表すとされている。本稿では、コーパスを用いて、内モンゴル「中部方言」における補助動詞 *ög-* の意味と、その意味が実現する条件を明らかにすることを目的とする。意味分析は、筆者³の内省によるものであるが、より客観性の高い結果を得るため、対象となる地域の方言話者にアンケート調査を実施する。

2. 補助動詞の定義

本稿では、斯欽格日樂 (2015) に従い、補助動詞を以下のように定義する。

①形式の面では、主動詞(単純副動詞である *V-ju/-jü/-ču/-čü*、*V-γad/-ged*、*V-n*⁴) に後続し、主動詞と補助動詞の間にポーズをおく⁵ことが不可能なもの⁶、

②意味の面では、単独で用いられる場合に持つような語彙の意味を表すのではなく、主動詞が表示ことがらに、アスペクトなどの文法的な意味を添えるものとする。

¹ 本稿では、内モンゴルにおけるモンゴル語「中部方言」のみを扱うことにする。栗林 (1989) は、ホルチン方言、ハラチン方言、バーリン方言、チャハル方言、ハルハ方言、オルドス方言、アラシャン方言を「中部方言」とし、その中に、黒龍江省、吉林省、遼寧省などの内モンゴル以外の地域のモンゴル語話者によって話されている方言も含めている。本稿での「中部方言」の分類は、栗林 (1989) に従うが、これら内モンゴル以外の地域の方言を対象外とする。「中部方言」にハルハ方言があるため、ハルハ方言の参考文献も参照することにする。

² モンゴル文字の表記は、清格爾泰 (1991) に従い Grønbech and Krueger (1976) 方式によって、ローマ字転写したものである。キリル文字表記は、송재목 (1998) に従い、ローマ字転写したものである。ただし、文献に関しては、キリル文字表記のまま掲載する。*ög-* については、グロスの内に適切な表現が見つからないため、そのまま表記する。

³ 1974年赤峰市巴林右旗生まれのバーリン方言話者である。

⁴ この用語は、フフバートル・松川・栗林 (1997) に従う。単純副動詞接尾辞には、*-ju/-jü/-ču/-čü*、*-γad/-ged*、*-n*がある。それぞれの異形態は、語幹末音と母音調和による異形態である。Čenggeltei (1999) によると、それぞれの接尾辞は次のような意味を表す。「*-ju/-jü/-ču/-čü*は、主動詞と補助動詞を結びつける場合、1語としての働きをさせる。*-γad/-ged*は、前項の動作を終わらせてから後項の動作を行うという意味を表し、前項動作が既に行われた状態を表す。*-n*は、1つの動作が繰り返して行われる、或いは瞬間的に行われるという意味を表す」(Čenggeltei 1999: 251-252)。

⁵ 話し言葉を想定しているが、書き言葉では、コンマを置くことを指す。

⁶ 寺村 (1984) は、「飲んできた」について、共に実質的な意味を表す場合もあれば、「来る」は補助動詞として空間の意味を表す場合もあるとしている。一方「飲んで、きた」について、共に実質的な意味を表すと述べている。つまりコンマをつけることが可能であれば、共に実質的な意味を表すと言える。モンゴル語にもこの説は当てはまる。

3. 先行研究

補助動詞 *ög-* が授受的意味を表すと述べている先行研究には、송재목 (1998)、Čenggeltei (1999)、Сун Бёнгү (2011) などがある。

- (1) Bat Tuya-d Angli-in tuxai yari-ad ög-sön.
 バト トヤ-DAT イギリス-GEN ついて 言う-ANT *ög*-PAST
 バトさんは、トヤさんにイギリスについて話してあげた。 (송재목 1998: 100)
- (2) *či ene kümün-dü jam sayiqan jıya-γad ög-0*
 あなた この 人-DAT 道 ちゃんと 教える-ANT *ög*-IMP
 あなたがこの人に道をちゃんと教えてあげなさい！ (Čenggeltei 1999: 320)
- (3) ta nad-tai xamt yav-j ög-nö üü?
 あなた 私-COM 一緒に 行く-SIM *ög*-PRS QP
 あなたが私と一緒にしてくれる？ (Сун Бёнгү 2011: 94)

송재목 (1998) は、補助動詞 *ög-* について、「*-j/-c*、*-aad*⁷ に後続して使われる。どちらの副動詞接尾辞に後続しても意味上差異はないが、主に *-j/-c* が多く使われる」(송재목 1998: 93) と述べている。Сун Бёнгү (2011) は、補助動詞 *ög-* について、「*-j/-c*、*-aad*⁷ に後続することは可能であるが、*-n*、*-saar*⁸ に後続することは不可能である」(Сун Бёнгү 2011: 94) と述べている。

補助動詞 *ög-* が「行為の完遂」の意味を表すと述べている先行研究には、Dawadayba (1999) がある。

- (4) *oru+mör ügei alay_a bol-u-γad ög-čei.*
 跡形 NEG 空 なる-E-ANT *ög*-PAST
 跡形もなく、いなくなってしまった。 (Dawadayba 1999: 64)

補助動詞 *ög-* が否定表現と共起して使われる場合について、内蒙古大学蒙古語文研究室編 (1976) は、「具体的な意味はないが、実現できない行為を際立たせ、それに対し、語気を強調する」(内蒙古大学蒙古語文研究室編 1976: 278) と述べている。

- (5) üime-ldü-ged bol-ju ög-kü ügei.
 騒ぐ-RCP-ANT なる-SIM *ög*-PRS NEG
 騒いで、言うことを聞かない。 (内蒙古大学蒙古語文研究室編 1976: 278)

⁷ それぞれモンゴル文字表記の *-ju/-jü/-čü/-čü* と *-γad/-ged* に対応する。

⁸ それぞれモンゴル文字表記の *-n* と *-ysayar/-gseger* に対応する。

4. 研究方法

本稿では、内モンゴル大学で構築された“100 tümen üge-tei odu üy_e-yin mongyul kele bičig-ün deyita kömürge (100万語現代モンゴル語書き言葉コーパス)”の中から、1900年以降生まれの作者⁹の作品で、かつ内モンゴルにおける「中部方言」の出身者の作品のみを抽出し、下位方言ごとにコーパスを作成した。作成したコーパスの詳細は以下の通りである。

表1 コーパスから見つかった内モンゴルのモンゴル人作者の出身地による方言分類

方言	作者名	数	生年月日	作者の出身地
ホルチン (178,587 単語)	Perlei.Be	2	1942	哲里木盟 ¹⁰ 扎魯特旗
	Odzar.Le	1	1941	哲里木盟達爾罕旗 ¹¹
	Asar.Me	1	1936	興安盟科爾沁右翼中旗
	Buyanbatu.Ge	1	1937	興安盟科爾沁右翼中旗
	Sayinbayar.Te	1	1938	興安盟
	Uyayatai	1	1943	興安盟科爾沁右翼前旗
	Badba	2	1939	哲里木盟科爾沁左翼後旗
	Tamusürüng	1	1940	哲里木盟科爾沁左翼後旗
	Rinčindorji.Me	1	1939	哲里木盟科爾沁左翼後旗
	Dawaodsar.F	1	1908	哲里木盟科爾沁左翼後旗
ハラチン (41,858 単語)	Büketemür	1	1945	哲里木盟庫倫旗
	üni ulayan.Me	1	1944	卓索図盟喀喇沁中旗 ¹²
パーリン (30,035 単語)	Odzar.A	7	1924	赤峰市巴林左旗
	Edüsangbu	1	1949	赤峰市巴林右旗
	Sodnam	2	1938	赤峰市巴林左旗
チャハル (47,357 単語)	Bürintegüs	2	1948	巴彥淖爾盟 ¹³ 烏拉特中旗
	Ligden	1	1943	錫林郭勒盟鑲黃旗
	Serengwayijab	1	1922	錫林郭勒盟正鑲白旗
	Batumöngke	2	1951	錫林郭勒盟正鑲白旗
	Čoirabjai.Go	1	1937	錫林郭勒盟正鑲白旗
	Γangpürbü	1	1926	錫林郭勒盟正藍旗
	Sayinčoytu.Na	1	1914	錫林郭勒盟正藍旗
	Serengwangjil.De	1	1961	錫林郭勒盟西烏珠穆沁旗
ハルハ (2,159 単語)	jamiyang.Go	1	1920	錫林郭勒盟阿巴嘎右旗 ¹⁴
オルドス (4,990 単語)	Ayungγ_a	1	1947	伊克昭盟 ¹⁵ 鄂托克旗
アラシャン (3,972 単語)	Ulayangerel	1	1963	阿拉善盟左旗

⁹ 1900年以前生まれの作者の作品は、古い文体を使う傾向がみられるため、除外する。

¹⁰ 今の通遼市である。

¹¹ 今の科爾沁左翼中旗である。

¹² 今の赤峰市の喀喇沁旗である。

¹³ 今の巴彥淖爾市である。

¹⁴ 今の阿巴嘎旗である。

¹⁵ 今の鄂爾多斯市である。

コーパスは、合計308,958単語であり、サイズは、978 KBである。データ収集に当たっては、文字列検索ソフト Kwic Finder を用いて、V-ju/-jü/-ču/-cü、V-γad/-ged、V-n に後続する補助動詞 ög- を含む用例を集め、さらにその中から、本動詞の意味で使われているものに関しては手作業で除外する。

補助動詞 ög- が表す意味は、まず、先行する主動詞の限界性と密接な関係があると仮定し、工藤 (1995) に倣い、動詞を内的限界動詞、非内的限界動詞¹⁶に分けることにする。主動詞の意味判断は、構文的な特徴¹⁷を考慮すると共に、定延 (2005) の「逸脱仮説」¹⁸をも参照しながら分類を行う。

次に、補助動詞 ög- が表す意味は、先行する主動詞の意志性とも密接な関係があると仮定し、吉川 (1989) に倣い、動詞を意志動詞 (人間の意志的な動作を表す動詞) と無意志動詞 (人間の意志によってコントロールできない動詞) に分ける。

1) 非内的限界動詞

1-1) 主体動作動詞

意志動詞: kele- (言う)、yari- (話す)、jiya- (教える) … など

無意志動詞: oru- (降る)、quča- (吠える) … など

2) 内的限界動詞

2-1) 主体動作・客体変化動詞

意志動詞: negege- (開ける)、oruγul- (入れる)、quči- (覆う) … など

2-2) 主体変化動詞

意志動詞: yabu- (行く)、saγu- (座る) … など

無意志動詞: bol- (なる)、unta- (寝る)、kür- (届く) … など

意味分析は、筆者の内省によるものであるが、より客観的であることを確認するため、「中部方言」の話者¹⁹にアンケート調査を実施した。アンケートの内容は、以下の通りである。

1. 本稿で扱う例文に関して、ög- が補助動詞として使われているか否かを確認するために、主動詞を省いた文を提示し、○か×かで回答してもらった。
2. 肯定表現との共起では、以下の4つの回答の中から、補助動詞 ög- が表す意味にもっとも近い回

¹⁶ 工藤 (1995) は、動詞を外的運動動詞、内的情態動詞、静態動詞に分け、さらに、外的運動動詞を、「主体動作・客体変化動詞 (内的限界動詞)」、「主体変化動詞 (内的限界動詞)」、「主体動作動詞 (非内的限界動詞)」に分けている。コーパスからは、内的情態動詞、静態動詞が見つからなかったため、本稿では、外的運動動詞のみを扱うことにする。

¹⁷ 例えば、čöki- (打つ) (表2の14) は、目的語が utasu (電話) の場合、電話を掛ける (主体動作動詞) という意味になり、後続する ög- が補助動詞として使われるが、「なげる」 (主体動作・客体変化動詞) という意味もあり、この場合、後続する ög- が補助動詞ではなく、本動詞として使われる。

¹⁸ 定延 (2005) は、「逸脱仮説」について「動作とは、当該のモノのデフォルト状態からの逸脱であり、これを表すのが『動作動詞』である。変化とは、当該のモノの直前状態からの逸脱であり、これを表すのが『変化動詞』である。つまり動作も変化も基準からの逸脱であり、両者の違いは、基準が『当該のモノのデフォルト状態』か『当該のモノの直前状態』かの違いである」(定延2005: 2) と述べている。

¹⁹ 調査に協力してくださった方々は1995～1997年生まれの方々の大学生である。各方言の協力者は、5人ずつである。

答を一つ選んでもらった。

- A. ken nigen-ü tölüge yayu nige kikü, darui busud-un tölüge güiçedkekü gesen udq_a-tai (誰かのために何かをやってあげる、つまり相手のために行うという意味を表す)
 - B. tuqai-yin üile-yi nigemüsün üiledkü, darui nigente ~ dayusuγsan gesen udq_a-tai (当該動作の行為の完遂、つまり既に〜し終わったという意味を表す)
 - C. öger_e udq_a (別の意味)
 - D. man-u nutuy-tu inggijü yariqu ügei (私の故郷ではこのように言わない)
3. 否定表現との共起では、以下の4つの回答の中から、補助動詞 ög- が表す意味にもっとも近い回答を一つ選んでもらった。
- A. tuqai-yin üile-i nigemüsün üiledkü, darui nigente ~ dayusuγsan gesen udq_a-tai (当該動作の行為の完遂、つまり既に〜し終わったという意味を表す)
 - B. yamar nigen jüül-ni sanay_a-bar-ni bolju ögkü ügei gesen udq_a-tai (ある物事が思い通りにならないという意味を表す)
 - C. öger_e udq_a (別の意味)
 - D. man-u nutuy-tu inggijü yariqu ügei (私の故郷ではこのように言わない)
4. 授受的意味を表すことを確認するために、文中に ken nigen-dü (誰かに) という受益者を提示し、○か、×かで回答してもらった。
5. 意志性がかかっているかを確認するため、意志を表す tusqayilan (わざわざ) という副詞を文中に提示し、○か、×かで回答してもらった。

5. 分析

5.1.では、非内的限界動詞の場合について、5.2.では、内的限界動詞の場合について検討する。

5.1. 主動詞が非限界動詞(主体動作動詞)の場合

表2では、補助動詞 ög- と共起する主動詞が主体動作動詞の場合の語幹及び現れた例文数を提示する。

表2 主動詞が主体動作動詞の場合の語幹及び現れた例文の回数

順番	主体動作動詞	肯	否
1	kele- (言う)	27	2
2	jīya- (教える)	12	0
3	yari- (話す)	8	0
4	arči- (拭く)	4	0
5	jūlgū- (拭く)	3	0
6	ungsi- (読む)	3	0
7	beledke- (準備する)	2	0
8	tanilčayul- (紹介する)	2	0
9	arγačaya- (工夫する)	1	0
10	baγsila- (教える)	1	0
11	biči- (書く)	1	0
12	čimegele- (伝える)	1	0
13	čirmayi- (努力する)	1	0
14	čoki- (打つ)	1	0
15	dayuda- (呼ぶ)	1	0
16	daru- (押す)	1	0
17	eri- (探す)	1	0
18	jala- (要請する)	1	0
19	jiru- (描く)	1	0
20	kögjimde- (演奏する)	1	0
21	qabsur- (手伝う)	1	0
22	qadayala- (保存する)	1	0
23	qamji- (手伝う)	1	0
24	qariyul- (答える)	1	0
25	siidbürile- (解決する)	1	0
26	tata- (引く)	2	0
27	tayil- ((意味を) 解く)	1	0
28	tayilburila- (説明する)	1	0
29	temdegle- (記録する)	1	0
30	töbkinegül- (支度する)	1	0
31	üje- (見る)	1	0
32	uqayul- (宣伝する)	1	0
33	ukiya- (洗う)	1	0
34	čir- (引っ張る、引く)	1	0
35	daya- (従う)	0	1
36	damna- (担ぐ)	0	1
37	ide- (食べる)	0	1
38	amalda- (約束する)	0	1
合計		88	6

表2から分かるように、主動詞の位置に主にkele- (言う)、jīya- (教える)、yari- (話す)などの言語活動動詞がきている。すべて意志動詞である。

(6) oči-ju üje-ged ög-gü-geči küü mini.

行く -SIM 見る -ANT ög-E-OPT 息子 1POSS

行ってみてくれ。息子よ。

(Ayungy_a : Jīryal ba tegün-ü abay_a)

(7) бүдүгүн тaryun bey_e ni bodul-i ni daya-ju ög-gü-gsen ügei.

大きい 太い 身体 3POSS 思い-ACC 3POSS 従う -SIM ög-E-PRF NEG

大きくて太い身体が思うように動かなかった。

(Badba: eremdeg jерemdeg kümüs)

例文(6)は、Čenggeltei (1999: 319)の説を裏づける例文で、恩恵を表す授受表現である。方言調査において、文中に「誰かに」という受益者の表示と意志を表す「わざわざ」という副詞の提示が可能であり、「誰かのために何かをやってあげる、つまり相手のために行うという意味を表す」という回答が得られた。田中(2001)は、日本語の「～てくれる」について、「否定表現と共起する場合、不満を表明する」(田中2001: 215)と述べている。例文(7)は、否定表現と共起し、思い通りに行かないことに対し、困っていることを表している。内蒙古大学蒙古語文研究室編(1976)は「実現できな

い行為を際立たせ、それに対し、語気を強調する」(内蒙古大学蒙古語文研究室編1976:227)と述べているが、本稿では、田中(2001)に倣い、不満を表す授受表現とする。例文(7)は、自分自身に対する不満を表している。方言調査において、文中に「誰かに(自分自身に)」という受益者の表示が可能であり、「あることが思い通りにならないという意味を表す」という回答が得られた。

5.2. 主動詞が限界動詞(主体動作・客体変化動詞と主体変化動詞)の場合

5.2.1. では、主動詞が主体動作・客体変化動詞の場合について、5.2.2. では、主動詞が主体変化動詞の場合について検討する。

5.2.1. 主動詞が主体動作・客体変化動詞の場合

表3では、補助動詞 *ög-* と共起する主体動作・客体変化動詞の場合の語幹及び現れた例文の回数を提示する。

表3 主動詞が主体動作・客体変化動詞の場合の語幹及び現れた例文の回数

順番	主体動作動詞	肯	否				
1	negege- (開ける)	5	0	14	jala- (まっすぐにする)	1	0
2	oruyul- (入れる)	2	0	15	řasa- (整える)	1	0
3	quci- (覆う)	2	0	16	uřsara- (組み立てる)	1	0
4	sekü- (めくる)	2	0	17	julřaya- (抜く)	1	0
5	tegü- (拾う)	1	1	18	kemne- (掛ける)	1	0
6	beyelegül- (実現させる)	1	0	19	noćuya- (火をつける)	1	0
7	bütüge - (完成させる)	1	0	20	qanduyul- (向ける)	1	0
8	ćeberle- (掃除する)	1	0	21	selbi- (補充する)	1	0
9	debis- (敷く)	1	0	22	aldarřa- (ほどく)	1	0
10	elgü- (掛ける)	1	0	23	uya- (結ぶ)	1	0
11	emne- (治療する)	1	0	24	tayarayul- (合わせる)	1	0
12	emüsügül- (着せる)	1	0	25	töbkinegül- (片付ける)	1	0
13	ergü- (持ち上げる)	1	0	26	könggele- (軽くする)	0	1
				合計		32	2

主体動作・客体変化動詞の場合は、すべて意志動詞である。

- (8) küse-gsen sana-řsan bökün-i ćini bide бүр beyele-gül-ü-n
 希望する -PRF 思う -PRF すべて -ACC 2POSS 私たち 全て 実現する -CAU-E-ASS
ög-ćü ćida-n_a.
 ög-SIM できる -PRS

あなたが望むすべてのことを私たちが実現させてあげることができる。

(üni ulayan.Me: Torřudćud-un alta-n ölügei)

- (9) Malći-d-un... (中略) tegeger_e+daruyasu-yi könggele-jü ög-kü ügei.
 牧民 -PL-GEN 負担 -ACC 軽くする -SIM ög-PRS NEG

牧民たちの負担を軽くしてくれない。

(Bürintegüs: moturtu Danzan)

例文 (8) は、恩恵を表す授受表現である。方言調査において、文中に「誰かに」という受益者の表示と意志を表す「わざわざ」という副詞の提示が可能であり、「誰かのために何かをやってあげる、つまり相手のために行うという意味を表す」という回答が得られた。例文 (9) は、不満を表す授受表現である。方言調査において、文中に「誰かに」という受益者の表示が可能であり、「あることが思い通りにならないという意味を表す」という回答が得られた。

梁井 (2006) は、「本来、意志動詞であるが、「うっかり～する」のように無意志的に行われる動詞を非意志動詞と名付けている」(梁井 2006: 145-146)。コーパスからは、主動詞が非意志動詞である例文が見つからなかったが、例えば、*čomu-yi ni medegsen ügei qayalayad ögčei/öggügsen.* ((誰かの) コップをうっかり割ってしまった。) のような例文は、*Dawadayba* (1999) の説を裏づける例文であり、「行為の完遂」を表す。ただし、*kereglekü ügei boluysan čomu-yi ni tusqayilan qayalayad ögčei/öggügsen.* ((誰かの) 使わなくなったコップをわざわざ割ってあげた。) は、授受的意味になる。

5.2.2. 主動詞が主体変化の場合

表4では、補助動詞 *ög-* と共起する主体変化動詞の場合の語幹及び現れた例文の回数を提示する。

表4 主動詞が主体変化動詞の場合の語幹及び現れた例文の回数

	主体動作動詞	肯	否				
1	yabu- (行く)	6	1	8	jigi- (伸ばす)	1	0
2	bol- (なる)	3	1	9	sungya- (伸ばす)	1	0
3	unta- (寝る)	3	1	10	sal- (離れる)	0	1
4	kür- (届く)	0	3	11	tengkere- (回復する)	0	1
5	dökü- (近づく)	0	2	12	olda- (見つかる)	0	1
6	aril- (消える)	1	0	13	tayara- (合う)	1	0
7	önggere- (経つ)	0	1	合計		16	12

主体変化動詞の場合には、意志動詞もあれば、無意志動詞もあった。まず意志動詞との共起について検討する。

(10) *angqan-u geyičin čini yabu-γad ög-gü-gsen siu…* (省略) *kimda kilbar*
 先ほど-GEN 客 2POSS 行く-ANT *ög-E-PAST* MP 安い 簡単
siidbürilegen-ü mal+qunar qaryu-bal qubin-dayan ol-qu yum uu
 解決する-GEN 家畜 会う-COND 自分-DAT・REFL 得る-PRS MP QP
gejü γorilla-ju yabu-γ a bayi-jai.

と ほしがる-SIM 行く-PRS いる-PAST

先ほどの客が行っちゃったよ… (省略) 安売りの家畜があったら、自分のものにしようと思いがあって来たそうだ。

(Edünsangbu: qabur-un qaliy_a)

- (11) qarilçayur-i bisi qayiratu küü-ben teberi-jüü bayi-γ_a metü sal-ju
 電話-ACC NEG 愛する 息子-REFL 抱く-SIM いる-VN ように 離れる-SIM
 ög-küü ügei jiyura-ldu-ba.
 ög-PRS NEG 付きまとう-RCP-PAST

受話器ではなく愛する息子を抱いているかのように(受話器を)手放してくれず付きまとった。

(Badba: nutuy-un kümüs-ün toyimu jiryγ)

例文(10)は、「行為の完遂」の意味を表している。方言調査では、文中に「誰かに」という受益者の表示と意志を表す「わざわざ」という副詞の提示が不可能であり、「当該動作の行為の完遂、つまり既に〜し終わったという意味を表す」という回答が得られた。主動詞は、意志動詞であるが、ここでは、話し手の意志と関わりのないところで行われた行為である。ただし、文脈を変えれば、授受的意味になる。例えば: *çi tegün-tei qamtu yabuyad ög!* (あなたが彼と一緒に行ってあげなさい!) のような例文である。例文(11)は、不満を表す授受表現である。方言調査では、文中に「誰かに」という受益者の表示が可能であり、「あることが思い通りにならないという意味を表す」という回答が得られた。次に無意志動詞と共起について検討する。

- (12) usu uuγu-lyā-n bay_a+say_a yayum_a ide-gül-ü-megče tay nige unta-γad
 水 飲む-CAU-AS 少し もの 食べる-CAU-E-MOM まったく一 寝る-ANT
 ög-çei
 ög-PAST

水を飲ませて、ちょっと食べさせたら、すぐぐっすり寝てしまった。

(Çoyirabjai. Го: öničün örügesün qoyar)

- (13) arban jil ni yayaki-ju eyi-ged önggere-gsen bolbaçu, arbaqan qonuy
 十 年 3POSS どうする-SIM やる-ANT 過ぎる-PAST だが 十 日
 ni yerü önggere-jüü ög-küü ügei.
 3POSS どうしても 過ぎる-SIM ög-PRS NEG

十年間は、なんとか過ぎたが、十日間だけはどうしても過ぎてくれない。

(Batümönke: qamar Lodun)

例文(12)は、「行為の完遂」の意味を表している。方言調査では、文中に「誰かに」という受益者の表示と意志を表す「わざわざ」という副詞の提示が不可能であり、「当該動作の行為の完遂、つまり既に〜し終わったという意味を表す」という回答が得られた。例文(13)は、不満を表す授受表現である。方言調査では、すべての方言において、「誰かに」という受益者の表示が可能であり、「あることが思い通りにならないという意味を表す」という回答が得られた。

6. コーパスとアンケートの照らし合わせ

補助動詞 ög- が表す意味とコーパスから見つかった例文を方言ごとに、表5に提示しておく。

表5 補助動詞 ög- が表す意味と方言ごとの用例数 (延べ数)

方言 意味	ホルチン 方言	ハラチン 方言	バーリン 方言	チャハル 方言	ハルハ 方言	オールドス 方言	アラシャン 方言	合計
授受の意味	92	19	9	22	0	3	0	145
行為の完遂	2	0	1	8	0	0	0	11
合計	94	19	10	30	0	3	0	156

表5 及びアンケート調査の内容を照らし合わせながら説明すると以下の通りである。

1. 方言調査において、本稿で扱った例文の主動詞を省略することが不可能であるとの回答が得られた。つまり、これらの例文で使われている ög- は、補助動詞として使われていることを証明している。
2. 授受の意味を表す場合は、コーパスから、ハルハ方言、アラシャン方言の例文が見ならず、「行為の完遂」の意味を表す場合は、ハラチン方言、ハルハ方言、オールドス方言、アラシャン方言の例文が見つからなかったが、アンケート調査を通じて、すべての方言において、このような表現は使われていることが確認できた。
3. 方言調査を通じて、授受の意味を表す場合、肯定表現との共起では、恩恵の意味を表し、否定表現との共起では、不満を表すことが分かった。
4. 授受の意味を表す場合、文中に「誰かに」という受益者の提示が可能であり、意志を表す「わざわざ」という副詞と共起することが可能であるのに対し、「行為の完遂」の意味を表す場合は、「誰かに」という受益者の提示が不可能であり、意志を表す「わざわざ」という副詞と共起することも不可能である。

7. 補助動詞 ög- が表す意味とその意味が実現する条件について

7.1. では、補助動詞 ög- が表す意味が主動詞の種類とどのように関わっているかについて、7.2. では、補助動詞 ög- が表す意味が主動詞に後続する副動詞接尾辞とどのように関わっているかについてまとめておく。

7.1. 主動詞の観点から

補助動詞 ög- が表す意味が、主動詞の種類と密接な関係があることが分かった。以下、その詳細を把握するために、補助動詞 ög- が表す意味と、コーパスから見つかった用例数を主動詞種類別に表6にまとめておく。

表6 補助動詞 ög- が表す意味と主動詞の種類別に見つかった用例数 (延べ数)

動詞類 意味	非限界動詞		限界動詞						合計				総数
	主体動作		主体動作・ 客体変化		主体変化								
	意志		意志		意志		無意志		意志		無意志		
	肯	否	肯	否	肯	否	肯	否	肯	否	肯	否	
授受	88	6	32	2	5	2	0	10	125	9	0	11	145
完遂	0	0	0	0	6	0	5	0	6	0	5	0	11
合計	88	6	32	2	11	2	5	10	131	9	5	11	156

表6のまとめと本文の内容を照らし合わせながら説明すると以下の通りである。

1. 補助動詞 ög- は、主に授受的意味を表すが、「行為の完遂」の意味をも表す。
2. 授受的意味を表す場合は、限界・非限界動詞のどちらとも共起し、肯定・否定表現のどちらとも共起する。この場合の主動詞は、ほとんど意志動詞であるが、無意志動詞の場合は、必ず否定表現と共起する。
3. 「行為の完遂」の意味を表す場合は、限界動詞のみと共起し、肯定表現のみと共起する。この場合の主動詞は、ほとんど無意志動詞であるが、意志動詞の場合は、非意志的に行われた行為、あるいは話し手の意志と関わりのないところで行われた行為のみである。

7.2. 副動詞の観点から

補助動詞 ög- は、副動詞 V-ju/-jü/-ču/-čü、V-yad/-ged、V-n に後続することが分かった。以下、補助動詞 ög- が表す意味と主動詞に付く各副動詞接尾辞ごとの用例数を表7に提示し、補助動詞 ög- が表す意味が、これらの副動詞接尾辞とどのように関わっているかをみる。

表7 補助動詞 ög- が表す意味と主動詞に付く各副動詞接尾辞ごとの用例数 (延べ数)

意味	副動詞接尾辞		-ju/-jü/-ču/-čü		-yad/-ged		-n		合計		総数
	肯	否	肯	否	肯	否	肯	否	肯	否	
授受的意味	103	21	14	0	7	0	124	21	145		
行為の完遂	0	0	11	0	0	0	11	0	11		
合計	103	21	25	0	7	0	135	21	156		

表7と、コーパスから見つかった例文を照らし合わせながら分析すると以下の通りである。

1. 授受的意味を表す場合:

- ・ -ju/-jü/-ču/-čü で現れた例文がもっとも多い。Čenggeltei (1999) は、「主動詞と補助動詞を結びつける場合、一語としての働きをさせる」(Čenggeltei 1999: 251) と述べているが、本研究では、송재목 (1998) と同じく、「主動詞と補助動詞を結びつける場合に、もっとも一般的に使われるのが、-ju/-jü/-ču/-čü である」(송재목 1998: 93) と考える。
- ・ -yad/-ged の形で現れた14例のうち、ög- に過去を表す -be と -l_e が後続する例文が一例ずつ見つかったが、その他はすべて意志・求形・命令形、条件表現が後続している (例文 (6) を参照)。

このことから、話し手が結果を意識して話していると考えられる。

- ・ -nの形で現れた例文が7例あった(例文(8)を参照)。Сун Бёнгу (2011) は、補助動詞 ög- が「-nに後続することは不可能である」(Сун Бёнгу 2011: 94) と述べているが、「中部方言」において、-nに後続することは可能であることが証明された。この差異について更なる調査が必要である。
- ・ 否定表現と共起するか否かという観点からみると、-ju/-jü/-ču/-čüの形のみが否定表現と共起している。筆者の内省によれば、-n、-γad/-gedの形は、否定疑問文を除き、否定表現と共起することが不可能である。これは、-n が表す瞬間性と -γad/-ged が表す結果性と関係していると考えられる。

2. 「行為の完遂」の意味を表す場合、すべての用例が、-γad/-gedの形で現れた。その原因は、-γad/-gedの表す結果性が強いためであると考えられる。11例のうち、ög- に習慣を表す -deg が後続する例が一例、条件を表す -bel が後続する一例見つけたが、その他すべて過去テンスを示す動詞語尾 -jei/-čei、-gsen、-l_e が後続している。(例文(10)、(12)を参照)。このように「行為の完遂」の意味を表す場合、過去テンスと共起し易いであろう。全て肯定表現と共起し、後続する ög- の後ろに、条件表現がくることはあるが、希求形、命令形表現がくることはない。

8. おわりに

本稿では、コーパスとアンケート調査を基に、「中部方言」における補助動詞 ög- の意味、そしてその意味が実現する条件を明らかにした。補助動詞 ög- には、先行研究で言及しているように授受の意味と「行為の完遂」の意味があり、その意味は、主動詞の性質(限界性、意志性)、主動詞に後続する副動詞接尾辞、及び ög- に後続する肯定・否定表現と深く関わっていることが分かった。コーパスからはいくつかの方言の作者の作品からの例文を見つけることができなかったが、アンケート調査を通じて、すべての方言において、これらの表現が使われていることが確認できた。

〔凡例〕

_	語末分かち書き母音	CAU	causative 使役
-	形態素境界	COL	collective 集合
-	格境界	COM	comitative 同格
+	複合語内部の語境界	COMP	čompletive 完成
1	first person 一人称	DAT	dative locative 与位格
2	second person 二人称	E	epenthesis 挿入音
3	third person 三人称	EXIS	existence 存在
ABL	ablative 奪格	FP	focus particle 焦点化小辞
ACC	accusative 対格	FUT	future 未来
ANT	anterior 先行副動詞	GEN	genitive 属格
ASS	associative 随伴	INS	instrumental 道具格

IMP	imperative 命令	PRS	present 現在
LMT	limitative 限界	QP	question particle 疑問小辞
MP	modal particle モダリティ小辞	RCP	reciprocal 相互
MOM	momentaneous 瞬間相	RDP	reduplicated form 重複
NEG	negative 否定	REAL	realis 既然法
NMLZ	nominalizer 名詞化	REFL	reflexive possessive 再帰所属
OPT	optative 希求	SFP	sentence final particle 終助詞
PASS	passive 受け身	SIM	simultaneous 同時副動詞
PAST	past 過去	TR	transitive 他動詞
PRF	perfect 完了	VN	verbal nominal 形動詞語尾
PL	plural 複数	VOL	volitional 意志
POSS	possessive 人称所属		

[参考文献]

- Čenggeltei (1999) *Odu üy_e-yin mongγul kele*. Kokeqota, Öbür mongγul-un arad-un keblel-ün qoriy_a.
- Dawadayba, B. (1999) Mongγul kelen-ü üile üge-yin “tusalaqu sinji”-yi tursin ajiylaysan ni. *Öbür mongγul-un yeke surγayuli-yin erdem sinjilgen-ü sedgül*, 2 duγar qurγuçaγ_a: 59-71. Öbür mongγul-un yeke surγayuli.
- フフバートル・松川節・栗林均編 (1997) 『モンゴル語研修テキスト』3. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- Grønbech, Kaare and John R. Krueger (1976) *An Introduction to Classical (Literary) Mongolian*. Otto Harrassowitz, Wiesbaden.
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- 栗林均 (1989) 「内モンゴル語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編 『言語学大辞典 第2巻 世界言語編 中』. 1426-1434. 三省堂
- Mongγul kelen-ü toli nayirayulqu duγuyilang (1999) *Mongγul kelen-ü toli*. Öbür mongγul-un arad-un keblel-ün qoriy_a.
- 内蒙古大学蒙古語文研究室編 (1976) 『蒙汉辞典』呼和浩特 内蒙古人民出版社
- 清格爾泰 (1991) 『蒙古語語法』内蒙古人民出版社
- 定延利之 (2005) 「日本語の動作動詞と変化動詞」第1回中日理論言語学研究会ハンドアウト
- 斯欽格日樂 (2015) 「モンゴル語の補助動詞 γar- の機能について」『日本モンゴル学会紀要』45: 9-23. 日本モンゴル学会
- Сун Бёнгү (2011) Орчин цагийн монгол хэлний туслах үйл үгийн судалгаа. Диссертаци, Монгол Улсын Боловсролын Их Сургууль, Улаанбаатар.
- 송재목 (1998) <할하 몽골어 보조동사구문에 대하여>. 언어학23권 79-110
- 田中真理 (2001) 「ディスコースと日本語教育」『認知文論、日本語教育学シリーズ』5: 183-229 おうふう出版
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』くろしお出版
- 梁井久江 (2006) 「日本語における文法に関する実証的研究-テシマウ相当形式を中心に」東京立大学大学院

人文科学研究科 博士学位論文

吉川武時 (1989) 『日本語文法入門』アルク 東京

SUMMARY

In this paper, we have clarified the functions of the auxiliary verb *ög-* in several Mongolian dialects, spoken in Inner Mongolia, by analyzing the corpus and responses to a questionnaire.

We found that the auxiliary verb *ög-* represents the benefactive meaning and accomplishment of an act, and it depends on the types of main verbs (particularly associated with the volitionality), converbal suffixes of a main verb, and expressions occurring after *ög-*, such as affirmative/negation.

Although we could not find any examples of the auxiliary verb *ög-* in several dialects from the corpus, the result of an analysis of the responses in the questionnaire shows that the speakers of those dialects use the auxiliary verb *ög-* colloquially.